

R4.5.30(月)

## 第2回校内研究

### ○各ブロックの記録(SEL)

SEL (Social and Emotional Learning) は日本では「社会性と情動の学習」と訳される。具体的には感情の理解やコントロール、他者への思いやりや気遣いの育成、責任ある意思決定、前向きな対人関係の構築、困難な状況の効果的な対処などの力の育成を目指していく。SELの核となる能力は「①自己への気づき」「②他者への気づき」「③自己のコントロール」「④対人関係」「⑤責任ある意思決定」の5要素である。

#### ・道徳の実践事例

自分の長所、短所を周りと共有する(短所の方が多かった)。仲間のことを知る機会に自分のことも周りの意見から考える。

#### ・SELの5つの核を身に付ける順序(段階を踏んだ指導)も大切。

自分への気づき→他者への気づき→自己のコントロール→対人関係→責任ある意思決定

※意思決定は場面によって身に付けさせる順番が優先される。

#### ・道徳、特別活動、日常生活を通して身に付けさせたい。

・クラス、学年などの状況や発達の段階に応じて、身に付けさせたり考えさせたりする核を選択していきたい。

→個人差、集団としての差が指導において難しいのではないか。

### ○各ブロックの記録(ピア・サポート)

ピア・サポートとは仲間同士で相互に支え合い、課題解決をする。仲間力の育成を目的としている。ピア・サポートの考え方は①誰もが、成長する力を持っている。②誰もが、自分で解決していく力を持っている。③人は、実際に人を支援する中で成長する、である。ピア・サポートのトレーニング内容と構造には、「対立解消スキル」「課題解決スキル」「コミュニケーションスキル(言語、非言語)」「サポート・信頼・ストローク」「共感スキル」「自己理解」である。

・授業の中で活かすのはとても難しい。→まずは特別活動でやっていくのが良いのでは？

・研究授業をやるにあたり、教科の中に入れ込むと観察者が見づらい(ピア・サポートを全面に出した方が良い)。

・Q-U をやると生徒の実態が見やすい。→アンケートを作成する?(きちんとしたものがよい)  
Q-U は過去にうまく活用ができずに廃止した。

・やってみて、生徒がどう変わったかが大切。こちらが思っている実態と生徒たちが感じていることが一致しているのか?

・実態把握アンケート(生徒・教員)を実施し、その後生徒にアンケートを取る。これによって差がないのかさぐる。

・研究主題は“行きたくなる学校をつくるために”である。自分たちにはできることは何か考える。

### ○各ブロックの記録(協同学習)

協同学習とは生徒たち同士や生徒と教師との相互とのコミュニケーションを促し、共通の問題解決を目指してお互いの考えを積極的に出し合うことで、学習内容の理解・習得や新たな創造や発見を行う、という話し合いや助け合いを中心とした授業づくりである。協同学習には「①互恵的な相互依存関係」「②対面的なやりとり」「③個人としての責任」「④協同学習のスキル」「⑤チームの振り返り」である。

・マニュアルを作るかどうかはおいとして、みんながイメージを持てるようになることは大事。

・協働学習は「子どもたち同士が教え合い学び合う協働的な学び」

・協同学習は「協同の理念で学習する」または、「協同の理念を学習する」

そうやって考えたときに、今先生方が行っているグループ学習には2つの要素が入っているのではないかと。

・具体的に「こういうことはそろえよう」ということを決めておいたほうがいい。

・研究授業の前に協同学習の5要素を用いた授業を行ってみる。

・身延中スタンダードを活用できないか?

・学習目標とコミュニケーション目標が2つ出てくる。

### ○菊池先生の授業実践から

校長先生がまとめてくれたものです。

・授業のねらいをしっかりと持っている。

・仲間の言葉を大切に聞くように仕向けている。

・生徒の言葉をリボイス、価値づけながら全体に返していく。

・うまくいかないときや間違ったときに巧みに返し、失敗に終わらせない。

・多様性、空気感、即興力などの育成。

- ・時間を工夫し、自分の言葉で語らせるようにしている。
- ・小言、時を戻す、拍手、握手、言葉など様々な手法の活用。

□の中はブロック長の先生方がまとめてくださった内容の一部です。その下はブロックの話し合いで出た意見になります。

ブロック長の先生方をはじめ、各ブロックの先生方研究会ありがとうございました。2回目のブロック研究に向けてまた各自での活動をよろしくお願いします。また、授業実践をしていただけの先生が決まりましたら報告をお願いします。協同学習では9月に高次先生が研究授業を行う予定になりました。

ピア・サポートのブロックでQ-Uの話ができました。しかし、すでに予算をカットし現在は行っていません。そこで今年度から来年度はアセスというアンケートを実施してみたいと思います。

アセスとは①生活満足感、②教師サポート③友人サポート④向社会的スキル⑤非侵害的関係⑥学習的適応の6因子で構成されている。

例)・担任の先生は私のことを分かってくれている

・なんとなく気持ちが落ち着かないときがある

・まあまあ、自分に満足している など

学期に1度の測定。項目数は34で回答法は5件法(当てはまる～当てはまらない)

また、研究のことでないか要望等があればいつでも伝えていただければと思います。